

d-2) ニッポンバラタナゴ

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 4 汽水・淡水魚類(環境省 2003 年 5 月)」⁴⁾に絶滅危惧 IA 類、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に絶滅危惧 I 類種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、かつては、西日本の平野部に広く分布したが、各地で雑種化が進行し、現在では有明海沿岸のクリーク地帯が国内最大の生息地となっている⁶⁾。佐賀県内では、田出川、城原川、多布施川、馬場川、寒水川、佐賀江川、牛津川、今手川、晴気川、祇園川、六角川⁶⁾における記録がある。

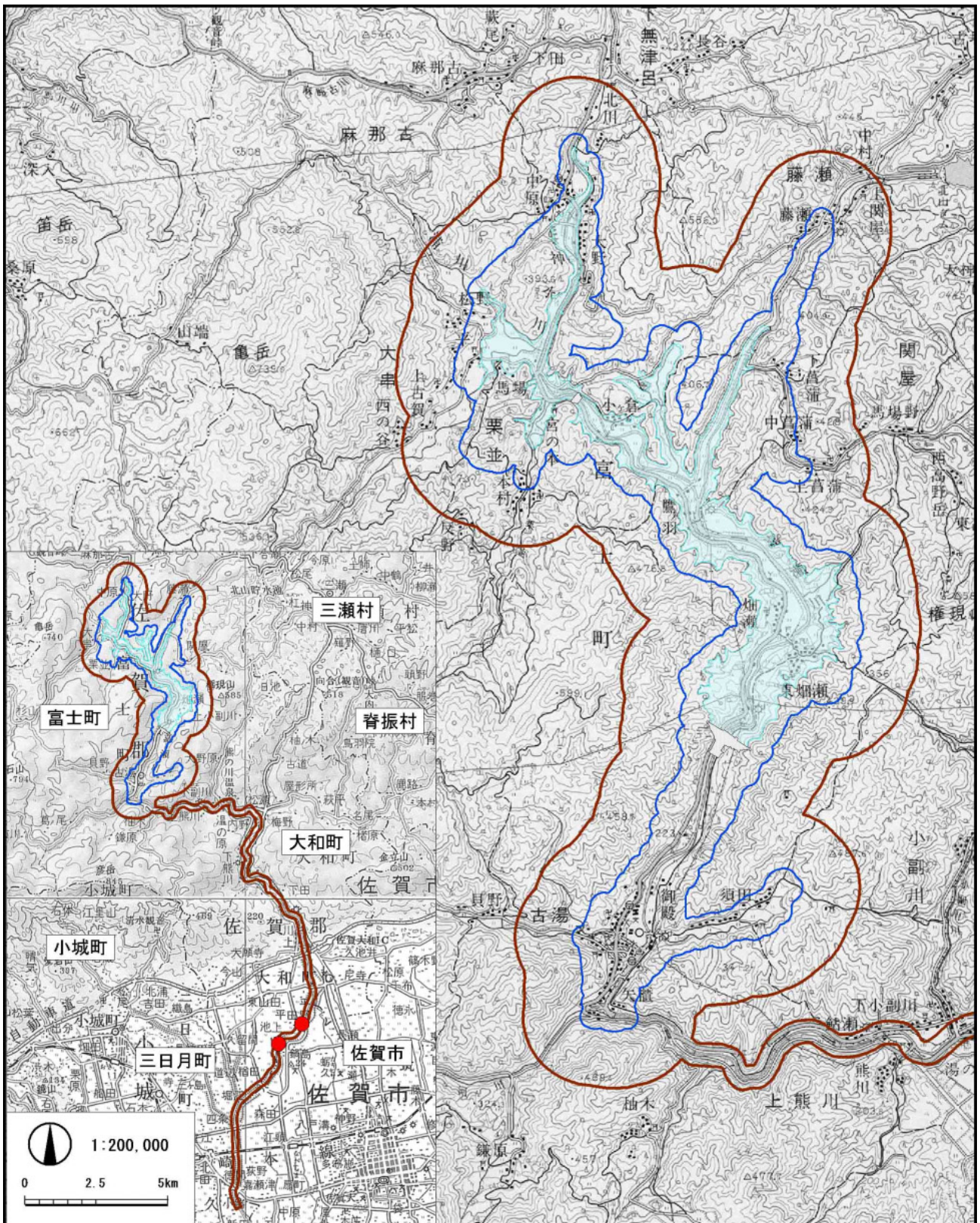
生態は、タイリクバラタナゴに似るが、より閉鎖的な止水域あるいは静水域を好む²⁷⁾。平野部の浅い池沼や河川敷内の池、あるいは河川や灌漑用水路の淀んだ場所に生息する²⁷⁾。付着藻類と植物繊維質が主な餌であるが、小型の水生動物も食べる²⁷⁾。大阪府下の溜池に生息する雑種個体群の産卵期は 3 月～9 月と長く、4 月下旬～5 月下旬にかけて 2 歳～3 歳魚による最盛期が訪れ、産卵期の後半に 1 歳魚の一部による弱い盛期がある²⁷⁾。産卵に利用される貝の種類には幅が広くあるようである²⁷⁾。


iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-6(2)に示す。

本種は、平成 15 年度の調査において、嘉瀬川の池森橋上流 1 地点で生息が確認された。また、文献²⁹⁾において嘉瀬川の渡瀬橋付近 1 地点で確認された記録がある。

本種の生息状況については、専門家より、「本種は佐賀平野の水路を主な生息地とし、嘉瀬川の本川は本種の主な生息地ではない。また、現地調査で確認された個体は、水路から嘉瀬川に逸出した個体である可能性が高い」との情報を得た。



- 凡 例
-  : ダム堤体
 -  : 副ダム
 -  : 貯水予定区域
 -  : 対象事業実施区域
 -  : 調査地域
 -  : 確認地点

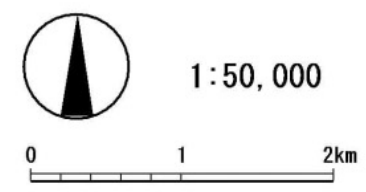


図4.1.5-6(2)
ニッポンバラタナゴ確認地点

d-3) カゼトゲタナゴ

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 4 汽水・淡水魚類(環境省 2003 年 5 月)」⁴⁾に絶滅危惧 II 類、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に絶滅危惧 II 類種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、熊本県八千代市の球磨川水系流藻川を南限とする九州北部のみに分布する²⁷⁾。福岡、佐賀両県の筑後川水系が本種の宝庫である²⁷⁾。佐賀県内では、多布施川、嘉瀬川、井柳川、田手川、馬場川、城原川、晴気川、石木津川⁶⁾における記録がある。

主に、平野部の細流や灌漑用水路のやや流れのある砂礫混じりの砂泥域を好む²⁷⁾。カゲロウやユスリカ等の小型の水生昆虫を主に食べる²⁷⁾。産卵の最盛期は二ツ川で 6 月²⁷⁾である。雌はほぼ 1 週間間隔で少なくとも 5 回産卵管を伸長させ、1 回の産卵で数粒の洋梨型の卵を主にマツカサガイに産み付ける²⁷⁾。

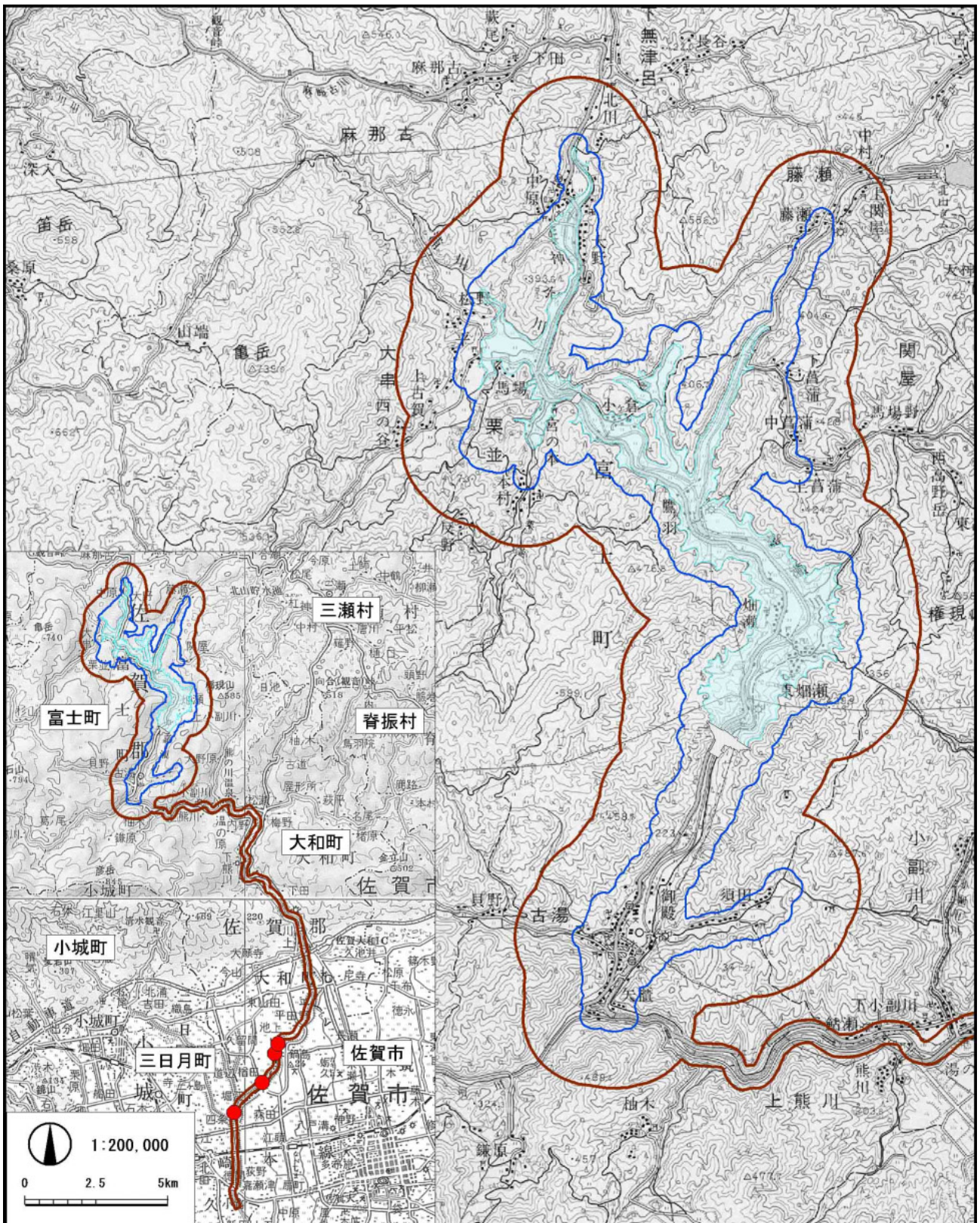
iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-6(3)に示す。

本種は、平成 10 年度及び 15 年度の調査において、嘉瀬川の池森橋付近 1 地点及び上流 5 地点、合計 6 地点で生息が確認された。また、文献²⁹⁾において嘉瀬川の嘉瀬大橋付近 1 地点で確認された記録がある。


確認地点の環境は、河川のとろ、淵、平瀬及び排水樋門付近の水路であり、16 個体が確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、主に流れが緩やかな嘉瀬川の下流部及び堤内の水路に生息すると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域

 : 確認地点



1:50,000

0 1 2km

図4.1.5-6(3)
カゼトゲタナゴ確認地点

d-4) スジシマドジョウ小型種点小型

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 4 汽水・淡水魚類(環境省 2003 年 5 月)」⁴⁾に絶滅危惧 IB 類、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に絶滅危惧 I 類種として掲載されている。

ii) 生態

本種は長野県千曲川、兵庫県岸田川から島根県神戸川までの山陰地方、九州西北部³⁰⁾に分布する。佐賀県内では、牛津川、佐賀市や神埼町のクリーク⁶⁾における記録がある。

平野部の農業水路または河川下流域の砂泥底、泥底にすみ²⁸⁾、雑食性²⁸⁾である。5 月～7 月に細流や小溝を経て水田や河川敷の浅い水溜まり等の一時的水域に移動し、泥底に産卵する²⁸⁾。卵径は約 0.9mm²⁸⁾である。雄は 1 年、雌は 1 年～2 年で成熟する²⁸⁾。産卵後に死亡する個体が多い²⁸⁾。

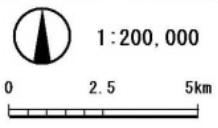
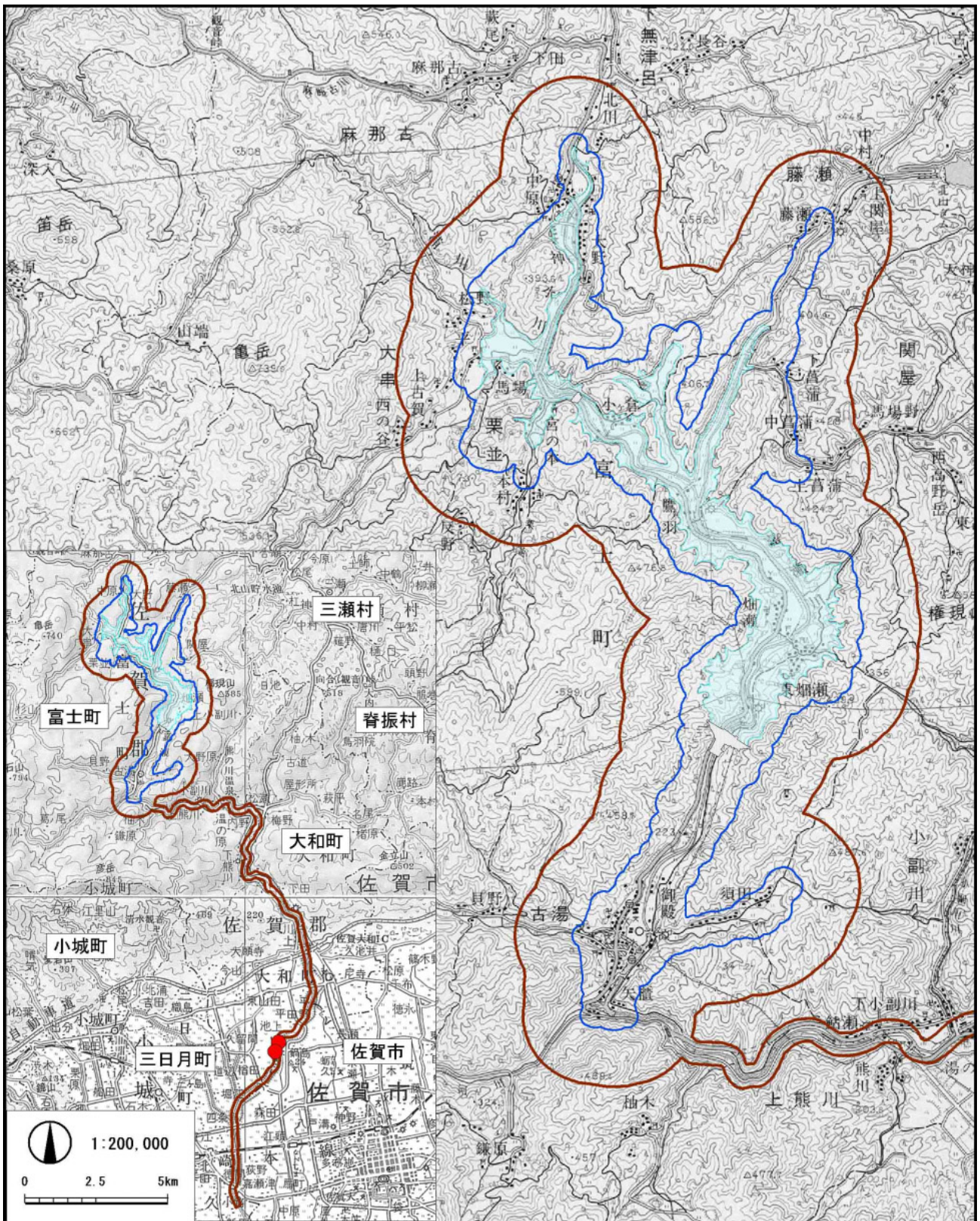
iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-6(4)に示す。

本種は、平成 10 年度及び 15 年度の調査において、嘉瀬川の池森橋上流 2 地点で生息が確認された。

確認地点の環境は、排水樋門付近の水路及び淵であり、2 個体が確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、主に流れが緩やかな嘉瀬川の下流部及び堤内の水路に生息すると考えられる。



- 凡 例
- : ダム堤体
 - : 副ダム
 - : 貯水予定区域
 - : 対象事業実施区域
 - : 調査地域
 - : 確認地点



1:50,000



図4.1.5-6(4)
スジシマドジョウ小型種点小型
確認地点

d-5) メダカ

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 4 汽水・淡水魚類(環境省 2003 年 5 月)」⁴⁾に絶滅危惧 II 類、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に準絶滅危惧種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、本州以南琉球列島までに分布する²⁷⁾。佐賀県内では、安良川、田手川、馬場川、城原川、中地江川、巨勢川、佐賀江川、本庄江、多布施川、晴気川、六角川、塩田川、中川、浜川、黒尾岳川、佐志川、有浦川⁶⁾における記録がある。

平地の池や湖、水田や用水、河川の下流域の流れの緩い所²⁷⁾に生息する。食性はプランクトンのほか、小さな落下昆虫等を食う雑食性²⁷⁾である。産卵は早朝に行われる²⁷⁾。求愛行動のあと雄が雌に寄り添い、背びれと尻びれで雌を上下から包み込むようにし、この時放精と産卵が行われる²⁷⁾。雌はしばらく腹に卵をつけたまま泳いでいるが、やがて水草等に産み付ける²⁷⁾。

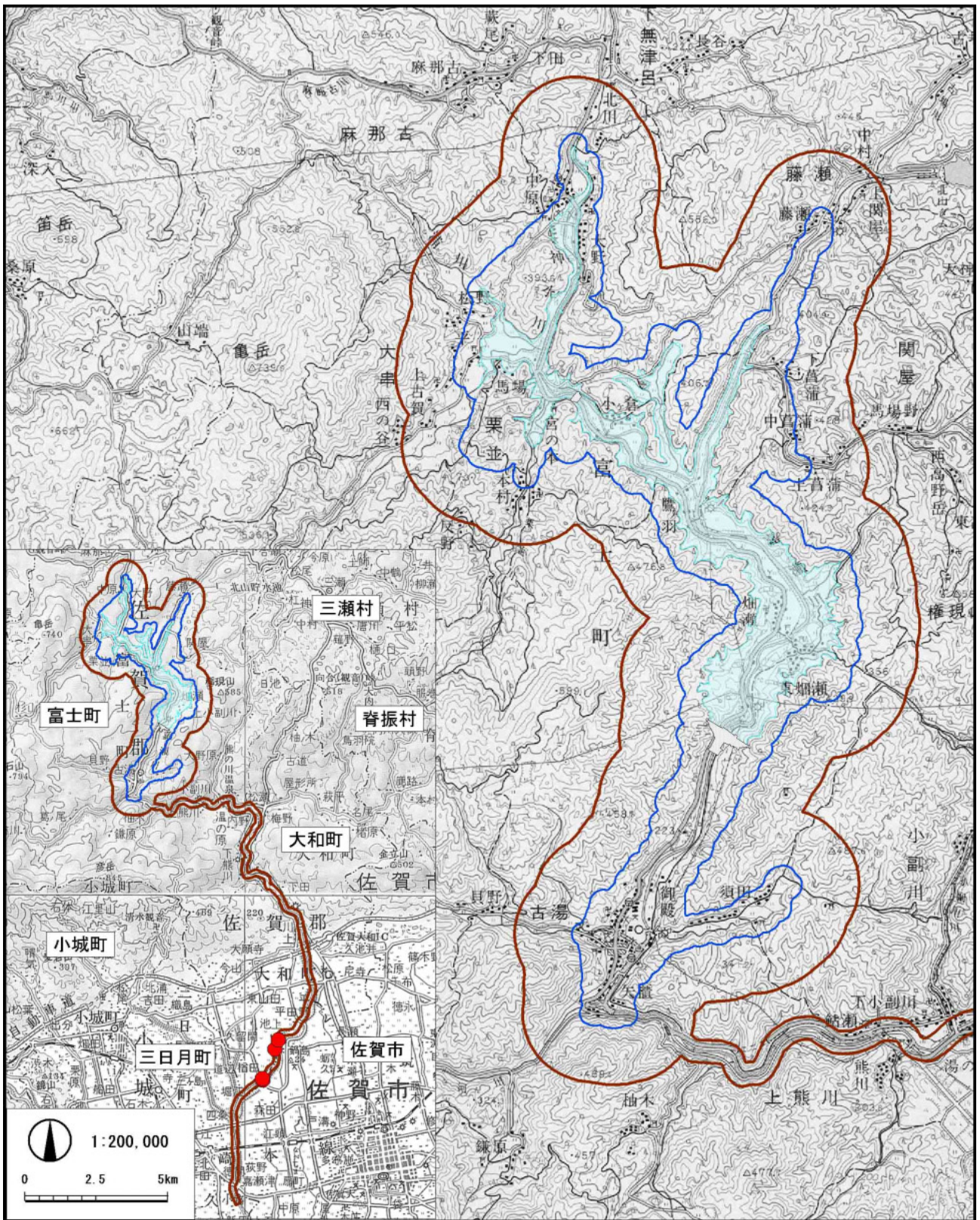
iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-6(5)に示す。


本種は、平成 10 年度及び 15 年度の調査において、嘉瀬川の池森橋付近 3 地点及び上流 3 地点、合計 6 地点で生息が確認された。

確認地点の環境は、河川のとり及び排水樋門付近の水路であり、5 個体が確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、主に流れが緩やかな嘉瀬川の下流部及び堤内の水路に生息すると考えられる。



- 凡 例
-  : ダム堤体
 -  : 副ダム
 -  : 貯水予定区域
 -  : 対象事業実施区域
 -  : 調査地域

 : 確認地点

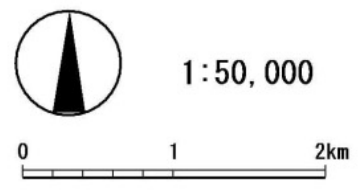


図4.1.5-6(5)
メダカ確認地点